【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-515679(P2005-515679A)
【公表日】平成17年5月26日(2005.5.26)
【年通号数】公開・登録公報2005-020
【出願番号】特願2003-561043(P2003-561043)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｑ　1/44　(2006.01)
Ａ４４Ｃ　5/00　(2006.01)
Ｈ０１Ｑ　7/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｑ　1/44
Ａ４４Ｃ　5/00　D
Ｈ０１Ｑ　7/00

【手続補正書】
【提出日】平成17年10月12日(2005.10.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
リストバンドと、ケース（１８）と、前記リストバンド内に配置されたアンテナ（１）を含む無線放送信号を受信する回路とを含むポータブル電子デバイス（１５）であって、前記アンテナ（１）が各々渦巻きばね状の巻き線の形に作成された少なくとも第１の平巻コイル（２）と第２の平巻コイル（２７）とを含み、前記アンテナ（１）が２つの向き合う面（２９、３０）を有する撓み基板（２８）に印刷され、前記２つのコイル（２、２７）がそれぞれ前記基板（２８）の一方の面（２９）と他方の面（３０）にそれぞれ印刷されていることを特徴とするポータブル電子デバイス（１５）。
【請求項２】
それぞれの渦巻きばね状の巻き線であるために、前記コイル（２、２７）が対応する巻き線の外側に位置する第１の端部（５、３１）と前記巻き線の内側に位置する第２の端部（９、３２）とを各々有し、前記第２のそれぞれの端部（９、３２）が基板（２８）を貫通し、電導材料を充填されて作成された穴（１０）を介して接続されることを特徴とする請求項１に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項３】
固定観察点で第１の端部（５、３１）から巻き線を考察した時に、前記コイル（２、２７）が逆の巻き方向を有することを特徴とする請求項２に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項４】
前記ケース（１８）が水密であり、前記無線放送信号受信回路が前記ケース（１８）内に位置する集積回路（２２）を含み、前記集積回路（２２）が前記無線放送信号を処理でき、前記アンテナ（１）を前記集積回路（２２）内に封止状態で接続する手段（６、７、８、２４、２５、２６）が設けられていることを特徴とする請求項１、２、または３のいずれかに記載の電子デバイス（１５）。
【請求項５】
前記接続手段が内部に少なくとも１つの封止ガスケット（２５、２６）が配置された前

記ケース（１８）内の適切な開口を通過する金属コネクタ（６、８）を含むことを特徴とする請求項４に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項６】
前記金属コネクタ（６、８）も前記基板（４、２８）上に印刷されていることを特徴とする請求項５に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項７】
前記巻き線の外部に位置する前記第１の１つまたは複数の端部（５、３１）を接続する金属コネクタまたはコネクタ（６、８）が前記巻き線と一体に形成されていることを特徴とする請求項５に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項８】
前記金属コネクタ（６、８）が銅製であることを特徴とする請求項５に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項９】
前記集積回路（２２）がプリント回路基板（１９）に形成され、接点（２０）を形成した前記プリント回路基板（１９）に前記金属コネクタ（６、８）を接続して、前記プリント回路基板（１９）が前記接点（２０）を前記集積回路（２２）に接続するための金属化経路（２３）をさらに含むことを特徴とする請求項４に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項１０】
前記コイル（２、２７）が銅製であることを特徴とする請求項１、２または３のいずれかに記載の電子デバイス（１５）。
【請求項１１】
アンテナ（１）が約１００ＭＨｚの搬送周波数を有する無線放送信号を受信することができるように前記アンテナ（１）の寸法が形成されることを特徴とする請求項１、２または３のいずれかに記載の電子デバイス（１５）。
【請求項１２】
前記ケース（１８）が時間表示手段に結合された時計ムーブメント（３３）をさらに含むことを特徴とする請求項１１に記載の電子デバイス（１５）。
【請求項１３】
外側表面（１７）側に位置する前記リストバンドの厚みが他方の側に位置するリストバンドの厚みより小さくなるように前記アンテナ（１）が前記リストバンド内に収容されていることを特徴とする請求項１、２または３のいずれか１項に記載の電子デバイス（１５）。